

母：「さっき『なかむらさんちのバス停』に行ったら、大学生になったあやちゃんがおっせ～、ふとなっちょっとしたがよ。びっくりやった～。」

私：「どっか行ったの？」

母：「うんにゃあ。なかむらさんげ～だけよ。はまだくんがねえ、この頃コーヒーをいれてくるったっどん、うんまかよお。むつかしか名前の豆やったっち。」

私：「そうそう、来週『いまむらさんちのバス停』で、ゆかちゃんのママたちがカフェするんだって。いとうさんちのスcone出すんだってよお！」

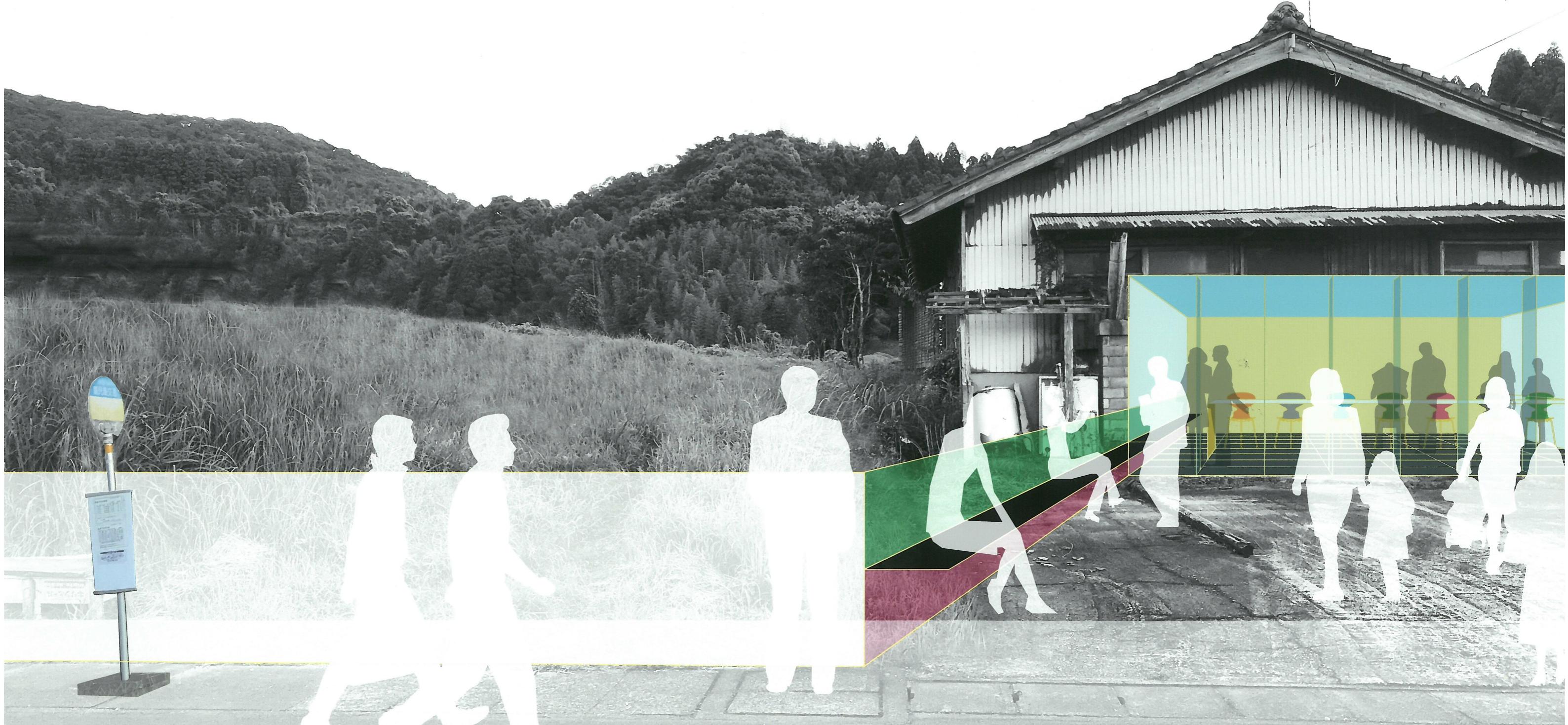
母：「じゅうでやねえ。ゆかちゃんち、いまむらさんげ～の隣の空き家に引っ越すたっち。カフェのこと、どこできいたのね？」

私：「『やすむらさんちのバス停』だよお。だれかが言ってた。」

母：「わっせえか遠くに行ったたんねえ。わかのにウォーキングね？おばさんみたいやっが…。」

私：「そんなんじゃないよ。このごろさあ、バス停行くのが楽しいじゃん。」

母：「じゅらいね～！」



〇〇さんちのバス停

この空き家バス停をみんな〇〇さんちって呼ぶ。ここは〇〇さんちなんだってバスを待ちつつ思う。知らない人だけど知ってる人のよう。